

令和7年度 第6回 丹波篠山市環境審議会 会議録

記録：農村環境課

■開催日時

令和8年3月5日（木） 19時00分～20時30分

■開催場所

丹波篠山市民センター 催事場1・2

■出席者

委員 14名

事務局 5名

■欠席者

委員 6名（うち5名委任有）

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) 環境施策にかかる令和7年度の実施状況及び令和8年度の方針について

A 委員

「事業 No.7」

体験型里山ツアーに参加したが、学生からも大変好評であった。こうした体験型で丹波篠山の魅力発信や自然の素晴らしさ

を伝えることも効果があると思う。とくに丹波篠山の夜空が美しいと評判で、普段暮らしているなかでは気が付かない魅力も感じたようである。

《事業 No.8》

会長

計画の位置づけはどうなっているか。

事務局

国際博のテーマである「日本の美しい農村、未来へ」を契機として、集落や地域づくりのあり方を示すビジョンである。

会長

宣言や計画が乱立すると混乱を招くこともある。

《事業 No.9》

会長

部会の進め方などは決まっているか。

事務局

現時点では環境審議会委員や会長が指名する委員以外の方を募り、小委員会を立ち上げたいと考えている。小委員会では、来年度の9月頃までに人材育成の枠組みや支援体制を集中的に議論し、その結果を令和9年度予算措置に間に合うような形で取りまとめたいと考えている。

B 委員

協働の対象範囲はどこまでを考えているか。行政からノウハウの提供などをして作り上げていく方法もある。補助金だけでは協働にはならないと思う。もう一步踏み込んだ取り組みが必要だと思う。

事務局

市民・活動団体・行政だけによる協働ではなく、活動団体どうしの協働を積極的に促していきたいと考えている。補助金申請の際には複数の団体との連携を求めており、弱みを両方で補い合う、強みを掛け算できるようにしている。これまでの支援で一定の創発支援はできたと考えている一方で、生まれた取り組みが発展し経済的な持続性を担保できる形まで育てていないことが課題だと感じている。小委員会では、創発から発展、さらにはどう持続できる活動にできるのかを考えていきたい。

《事業 No.20》

会長

現時点では新しいエコ・ティーチャー誕生の目途や今後の進め方で決まっていることはあるか。

事務局	協働プロジェクトで生まれたところから新しく誕生させることと、環境みらいパートナー事業者のなかから誕生できないかと考えており、市内高校との連携による講座展開なども検討している。
会長	講師や講座数の多様化、マッチング面から進めていただきたいと思う。
副会長	学校の先生に制度が認知されていないこともある。認知度向上も視野に入れてほしい。
事務局	学校園への周知は年度当初に行っている。同じ先生で複数回の利用があるなど偏りもあると認識しており、認知度向上につなげていきたいと考えている。
副会長	手続き上は事前申請が必要なのか。
事務局	申請書の提出後、市と講座を担当する講師との間で日程調整を行っている。
副会長	学校の先生と個別に調整して環境講座を実施する場合は、エコ・ティーチャーに該当しないのか。
会長	申請主義に拘りすぎるのはよくないと思う。実態として環境講座を実施しているのであれば、エコ・ティーチャー講座として位置付けていいと思う。
副会長	予算支出があるもの以外の講座も実績として位置付けてもいいと思う。
会長	<p>《事業 No.30》</p> <p>クビアカツヤカミキリを考慮した取り組みが必要だと思うが、関係者との連携は取れているか。</p>
事務局	桜ビジョン推進会議に農村環境課職員が出席し、本種の紹介やワークショップへの参加等を通じて意見を伝えている。

会長	<p>《事業 No.32》</p> <p>自然共生サイトの認定支援は、手を挙げるのを待っている段階なのか、市が働きかけていくようなものなのか。他市では申請書作成にコンサル事業者を入れて作成支援を行っているが、どこまでの支援を考えているか。</p>
事務局	<p>支援内容については検討中である。ほかにも申請や生きもの調査をコンサル事業者が代行する自治体もあるが、予算面の問題もあり、今後検討していきたい。</p> <p>市の方向性としては、子どもたちが主体的に自然のなかで遊べる場所として自然共生サイトを位置づけてはどうかと考えており、こうした場所を管理されている団体に打診をかけていきたいと考えている。</p>
A 委員	<p>《事業 No.38》</p> <p>住民による自然への興味関心も高まってきている。一方で、貴重な魚を愛好家や業者と思われる方が取りに来ていることがあるといった声も地域で上がっている。市内でごみのポイ捨ての看板をよく見かけるように、貴重な自然を守る抑止力のある別のポスターなどがあってもよいと思う。</p>
事務局	<p>市が個人で飼育を楽しむことを禁止することは言いにくい。事業者が生業として捕獲するようなことは危険なため、対策も必要だと思う。</p>
A 委員	<p>住民が声をかけるだけでも抑止効果になる。声掛けやポスター掲示などが必要だと思う。</p>
会長	<p>他市でもタナゴ類がいるような川にはそうした方が来る。公的にエリア指定をするぐらいしか方策はないと思う。</p>
副会長	<p>《事業 No.56 ほか》</p> <p>「R7 年度事業の概要」が単なる事業やビジョンの説明となっている。令和7年度に実施した事業の概要を書くべきである。会の開催については事業の概要欄に書くべきで、実績としては何人が参加したかなどを書くべきである。</p> <p>令和7年度は、獣害対策支援員を2名雇用しモデル地区で取</p>

り組みを進めてきた。このうち1地区は国の農林水産大臣賞を受賞していることを書くべきで、記載されていないことは理解できない。この事業を令和8年度は廃止すると聞いており、間違いなく事業は縮小されていると思う。

事務局

担当課へ伝えさせていただく。

《事業 No.58》

B 委員

オーガニックライフスタイルE X P Oへの出店も行ったこともインパクトのある話のため、実績に記載して PR した方がいいと思う。

《事業 No.61》

C 委員

生産者に対する支援は実施しているが、買う側に対する補助があってもいいと思う。環境に配慮したお米を食べて知ってもらい、環境にも興味をもってもらうことが大切だと思う。買う側にも支援策があればもっとこの取り組みが発展すると思う。

事務局

生産者への補助金は、生きもの調査や農薬低減による草刈り作業の増加など、一定の作業量増加に見合った単価を設定して交付している。消費者への支援策としては、一般にお米券やクーポンなどが想定されると思うが、幾分かは生産者への補助金交付が販売価格の抑制につながっていると思う。

C 委員

農業者が手間暇かけて作ったお米を、広く食べてもらうことが大切だと思う。

事務局

現在は市内の学校給食米の全量が農都のめぐみ米になっている。今後より普及させるためには、もっと生産量を増やしていく必要があると考えている。

《事業 No.75》

B 委員

リサイクル率が向上した要因は何か。

事務局

後日回答させていただく。

《清掃センター回答》

プラスチックごみの処理工程が変化したことに起因してい

る。従来は処理できない異物が多かったことと、作業ラインから処理できるものを選別・回収する方式であった。一方、新施設設では啓発により異物が減少したことと、異物のみを取り除く方式に変更したことで、その結果としてリサイクル率が大きく向上している。

《事業 No.87》

会長 太陽光発電の普及に伴い、既存設備の更新や廃棄の問題が出てきている。持続性を考えた際には、こうした施策に対しても検討する時期になっていると思う。

《事業 No.88》

会長 充電器の廃止は、耐用年数が経過したためか。

事務局 機器の性能の問題である。充電器に3G回線を使用しており、通信設備が使えなくなるためである。市が新たに設置するよりは、民間事業者への転換や、市設置による民業圧迫面を考慮して、持続的に運営してもらえる政策に転換している。

(2) 第3次環境基本計画パブリックコメントの結果について

会長 策定後の計画は、市のホームページに掲載されるだけか。

事務局 印刷物を図書館等に配架予定である。

D委員 P.22の表4内「蓄エネ」は合っているか。

事務局 「蓄エネ」が正しい。策定時に修正させていただく。

会長 パブリックコメントの周知は何で行っているのか。

事務局 市ホームページや市広報での周知のほか、市役所や各支所での配架を行っている。

会長 策定後はPDFなどで公開されるだけになると思う。需要があるかは別として企業や大人向けに計画内容を説明するような講座があってもいいと思う。

4. その他

事務局

- 第8回 ESD 実践研究集会
3月20日（金）と21日（土）に神戸大学にて第8回 ESD 実践研究集会兼全国 RCE 実務者会議（国連大学共催）が開催されます。
- 丹波篠山国際博「未来へのバトン」開催について
3月20日（金・祝）16時から丹波篠山国際博の振り返りと、今後の丹波篠山市へ、未来へ繋げるフォーラム等を行います。

5. 閉会